与謝野晶子

白櫻集

池の平温泉選集

池の平温泉に滞在した際に読まれ遺稿歌集
『白櫻集』に掲載された歌を抜粋しまとめました。

❶ 硫黄の香 樋より洩るるに導かれ樂山荘 歸る夕ぐれ

② 少女達 玉を柱 に斫らずとも 妙高山の白樺に倚れ

③ 關川の杉の澤村深きさへ見渡す山 の夕月夜かな

④ 妙高を消したる霧の裾ひろし月の世界の垂れてこしごと

⑤ 斑尾は浮ただよへるものと見え心 もとなき夕明かりかな

⑥ 妙高の山 谷谷を雲晴れ 眺むる夜となりにけり

❼ 山荘のかがりは二つ 妙高の左 の肩に金星とまる

⑧ 我れ二夜留まりぬべき妙高に草の枕 を月も借らまし

⑨ 宿借りてよろづの蟲の聲を聞く稀に廣かる妙高 の原

❿ 白樺の林 の中に蟲鳴きて池の平 の月夜となりぬ

⑪ 隣国の白き湖水の上踏みて月ことさらに歩みいでけん

⑫ 妙高の白樺林 木高くもなるとは知らで君眠らん

⑬ 野馬いでて遊べるさまの疎らなるはた繁りたる白樺の森

⑭ 朝風に樺の葉ぞ散る樂山の名は草木の知らざるが如く

⑮ 露深し秋風出でて伏したると怒れるとある草中の露

⓰ われは行く嵐の中に白露のかがやく朝の池の平を

⑰ 君と見し神奈の峰もいと近き赤倉の湯の山坂の道

⑱ 赤倉よめでたき薄立てわたす裾野の盤と思ひけるかな

⑲ 九月行く赤倉山の薄 枯れてまた咲くよさへなきここちする

⓴ 秋風が越の海より上るなり赤倉山にむかし思へば

㉑ 穂すすきが草滅び行く初めとはいまだゆめにも思わざる山

㉒ 帯引ける越の街道いにしえの關屋の跡の白き石垣

㉓ 火の事のありて古りたる衣著け一茶の住し土ぐらの秋

㉔ 秋風や一茶の後の小林の四代の彌太にあがなへる鎌

㉕ 湖 の舟の動きしつかのまにわれ唯今を忘れけるかな

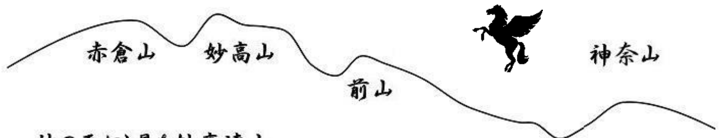
㉖ 別れこし湖水ホテルに靡きつる旗思ふまに超えぬ關川

㉗ 晴れしより雲れる秋 速やかに移る越路の山の湯の秋

㉘ 日の射せば山の樂 みこのことに盡きぬと人の居並ぶ廊下

いみじけれ不穢不濁なる二筋の流れのはさむ山荘の路

池の平温泉観光協会前のイベント広場の歌碑に刻まれた歌
⑳の歌とともに直筆の短冊が池の平公民館に所蔵されています
●印は表紙のいもり池 与謝野晶子碑に刻まれている歌です



池の平から見た妙高連山

妙高山 2454m(旧2446m)・ 赤倉山 2141m
前山 1932m(旧 1935m)・ 神奈山 1909m

コピー及び複製可

与謝野晶子について及び各歌の解説や経緯等の
学習会の開催も準備しております。

与謝野晶子 白櫻集 池の平温泉選集
初版 平成28年9月15日
改訂第2版 平成29年9月11日
白櫻集 赤倉温泉 香嶽楼 所蔵
企画
妙高に縁(えにし)ある文豪を語る会
与謝野晶子倶楽部会員 野口 進
協力・作成
市営食堂ホンドリス(くびき野観光研究所)